

篠田錦策・佐々木高政共著「和文英訳十二講」洛陽社 1954 年 3 月 7 日刊を読む

## 第 12 講 易しい書き方と難しい書き方

教育は学校で終わるものでない。一生続くべきものである。我々は学校を出てからも自ら教育しなければならない。自己教育こそ本当の教育である。

1. (1) 考え方：—「教育は学校で終わるものではない」は *Education does not end at school.* と書いても O.K. であろうが、それではじっくり本文を掘り下げてみないで、ただ言葉のうわつつらを英訳した嫌いがある。  
  
(2) 堅実に *Education does not end with graduation.* 「教育は学校卒業で終わるものではない」とするか、「卒業で終わる」を「学校時代で終わる」と考えて、*with graduation* の代わりに *with our school-days* としてもよい。
2. (1) \* *Graduation* の用例をもう一つ示すなら *What shall you do after graduation?* 「卒業したら何をなさいますか」  
  
(2) なお、「卒業式」は英国では *commencement*  
  
(3) *exercises* という語をつけない。つけば米国の言い方となる。  
  
(4) *speech day, prize day* などをつかい、米国では *commencement exercises, graduation* (何もつけない) などという。  
  
(5) 上記「卒業で終わるもの云々」の代わりに「卒業式で終わるもの云々」として、これらの英語すなわち英国風なら *commencement, speech day* など、  
  
(6) 米国風なら *commencement exercises, graduation* などをつかってもよい。  
  
(7) それから英・米では普通 *graduation ceremony* と言わないが、日本の「学校卒業式」の英訳としてなら差支えなかろう。
3. (1) 次に、「一生続くべきものである」は同じく *education* を主語として意識しながら *but it ought to be continued (all) through [for] life.* とする。  
  
(2) 第二文では、「学校を出てから」は *after we leave school* でも、*after we have left school* でもどちらでもよい。

(3)最後の文は Self-education is education in the true sense of the word.

(4)または簡単に Self-education is true education.としてもすまないことはないが、

(5)原文の「こそ」という強めを英文では sentence structure で表して

(6)After all, it is self-education which is education in the true sense of the word.とした方が訳文として勝ると思う。

(7)それではまとめてみよう。下記〔試訳 A〕は〔B〕〔C〕に比較してやや易しいと言えよう。

4. 〔試訳 A〕 Education should not end with our school-days, but be continued for life. Even after graduation, we must educate ourselves. Self education is true education.

〔試訳 B〕 Education should not terminate with our graduation ceremony, but be carried on to the last moment of our life. We must educate ourselves even after leaving school. After all, it is self-education that is worthy of the name of education.

〔試訳 C〕 Education is not something we say good-bay to as soon as we leave school. Even after that, we must go on schooling ourselves until we die. This alone deserves to be called education.

P233 ~ 234

[コメント]

たとえ高校生用のものであっても、内容のある参考書とはこのようなものだというよい例。テーマも素晴らしいし、英語も実にわかりやすい。大いに学びたい。

— 2014 年 10 月 5 日 林 明夫記 —